津波を知る⑧

津波と地名　地名が教えてくれる津波の歴史



太平洋プレートの影響を受けやすい場所にある南三陸町付近は、太古の昔から幾度となく津波に襲われてきた。縄文時代の遺跡が内陸部に点在し、平安時代は平泉・藤原氏の繁栄下で、長きに渡り先人たちがこの地域で歴史を紡いできた。震災前には多くの住民が川の下流部の平地に住んでいたが、明治時代以前には、多くの住民は内陸部に居住していた。深い森から湧き出る良質な水と里山の恵みが、人々の暮らしを支えてきたのである。

堤防などがなかった昔は、河口に近い下流地域は居住に適しておらず、海から遠く離れた場所にも川伝いに津波が到達していたことが、今に残る言い伝えや地名から読み取れる。長い時間が経過しても自然の脅威を忘れずに伝える知恵として、先人たちは災害にまつわる地名を語り継いできたのである。